連画リレーの活動の様子《国際交流セッション》

座間市立相模が丘小学校　川畑早苗

１，一枚の絵をきめる

まず連画リレーとはどういうものかについての説明をしました。でも、どういったものかあまり想像できなかったようなので、事前に私の方で見本をいくつか作ってみて、そこから新しいイメージをつかませるようにしました。

「学校で一枚だけがまず、最初にＨＰで公開されるからね」と、説明してから活動に入りました。子どもたちは、学校のお絵かきソフトの機能をたくさん発見しつつ、私には考えもつかないようなイメージで絵を作成することができていました。全員が仕上がったところですべての作品を黒板に掲示し、そこから人気投票をして一枚の作品が決まりました。

２，実際にリレーする

連画リレー２日目。すべての子どもたちの作品がＨＰにのる活動です。まず、ＨＰにアクセスしました。子どもたちが最初に喜んでいたことは、自分の知っている人の作品がＨＰで見ることができるということです。「すごいなぁ」とか「いいなぁ」とかそんな声が聞かれました。次に、ほかの学校の人が作った作品を見ました。そこでも、自分たちが考えた作品とは視点が違ったものが多かったので、参考にしようと、じっくり見ている様子がみられました。

そして、活動開始。子どもたちは、作品を見ている段階でかなり新しいイメージができあがっていたらしく、どんどん活動を始めました。その中で、子どもたちのやりたいことが自分たちが今まで学んできたことだけではできないことがあり、どんどんその場にいた教師やＰＣアドバイザーを呼んで、操作方法を学んでいきました。

私が見ていて感じたことは、作品と向かい合っている子どもは、一つの作品にかなり多くの時間をさいているタイプと、たくさんの作品をどんどんＨＰにアップしていきたいタイプとだいたい２つのタイプに分かれていることです。ただ、どちらのタイプにしても、一生懸命、そして楽しんで活動している様子が見られました。

作品を仕上げる時間は日にちをあけて２時間とりました。そして、子どもたちが喜んだことの２つ目は２日目にＨＰにアクセスしたときに、前の日よりもたくさんの作品がリレーされていたことです。また１日目にＵＰしていた子どもは自分の作品にリレーされていたりもして、それが次の意欲につながっていたようでした。それをみていて、同じ時間にほかの学校も活動をしてくれればいいなと思いましたが､残念ながらそのときは､うちのクラスだけが活動していたようでした。

３，大きくなった連画リレーをみる

自分たちの活動が終了して何日かたった後、そのころには 300 枚以上の連画になっていたと思いますが、その作品をＡ４の紙 12 枚分に印刷して貼り合わせ、子どもたちに見せてみました。自分の自宅からＨＰをみて作品の数が多くなっていることを知っている子どももいましたが、ほとんどの子どもが知らなかったので、かなり驚いていました。そして、自分の作品にリレーされていることを確認して喜んでいる様子も見られました。次に期待している子どももたくさんいました。